

はじめに

「全国がん罹患モニタリング集計 (MCIJ)」によりますと、2012年の1年間にがん
に罹患した人は86万5千人と推計され、2011年と比べて1万4千人の増加となりました。
高齢者人口の増加によって日本人のがん罹患数は今後も増え続けることは確実です。
しかし、高齢化の影響を除いた罹患率が増加しているのか、それとも減少しているのか
を、がんの部位毎に正確に見極めることは、様々な理由で困難を伴います。特に2000
年代の半ばからのがん診療連携拠点病院の整備などに伴う届出件数の増加が、真のトレ
ンドをわかりにくくしています。

本書は、その難しい課題に取り組んだものです。登録精度の高い県の地域がん登録デ
ータを活用して1985年～2012年の罹患率トレンドを求め、これに、死亡率、生存率や
登録精度指標、発見の経緯などの、罹患率トレンドを読む際に考慮すべき要因の推移も
判断材料として、各部位毎の真のトレンドを総合的に読み解くことにしました。対象と
した部位は、胃がんなどの主要部位の他、最近話題の甲状腺がんを含んでいます。

本書が日本のがん予防をはじめとするがん対策を効果的に推進するための一助にな
ることを願います。最後に、JACR MonographのSupplementとして本企画に多大な
リーダーシップを発揮された片野田耕太ゲストエディターはじめ、各種の関連データを
準備していただいた国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターの
皆様、それに罹患データを提供して下さった山形県、福井県、長崎県の地域がん登録
事業に従事された皆様、並びに生存率データを提供下さった各県の同事業に従事され
た皆様に厚く御礼申し上げます。

JACR Monograph 編集委員

(愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部)

田 中 英 夫